



紙管原紙・ライナー用サーフェイスワインダー

紙・不織布・フィルムを高品質に加工、 “絶対納期”で信頼勝ち取る

サンロール 株式会社

事業内容と沿革

内外紙工(株)とグループ形成、 規模を拡大

サンロールは紙とフィルム製品の中間加工会社。ロールに巻き取られた紙や不織布・フィルムの原紙を輪切り(スリッター)にするほか、芯つぶれ・キズ・水ぬれがあるロールを巻き替えて手直し(リワインダー)し、コピー用紙などの製品に仕上げる裁断も手がける。

創業したのは若林孝男社長の父親で、内外紙工(株)の社長を務める若林敬造氏。もとは、紙加工会社である内外紙工(株)の社員だったが独立し、大阪府東大阪市でサンロールを設立した。初めは自身も含め社員3名だった。しかし、顧客を順調に開拓して工場も増やし、平成5年に同門真市へ移転した。その後も順調に事業を拡張し、第2工場も設けた。平成19年には内外紙工(株)を買収した。内外紙工(株)は昭和26年設立で、主に大手製紙会社と取り引きがある。グループとなったサンロールは約50社の顧客を握り、内外紙工(株)は大手製紙会社からの大口顧客を抱え、客層も加工分野もほとんど重ならず、事業拡大のシナジー(相乗効果)を上げてきた。

強み

府内でトップの設備規模、 小ロット・単品も受注

若林孝男社長は「納期の指示は絶対で、平均で2日。朝に注文して、昼にはほしいという顧客もいる。断れば、次の注文はこない」と説明する。取り扱う種類も一般・印刷・情報用から包装・合紙・緩衝用、特殊・機能用と幅広く、小ロットや単品も受け入れる。顧客エリアも西は九州から、東は北海道までと広い。このため、紙・フィルム加工設備の増設に努め、短納期体制を整えてきた。主要な設備はスリッターが10台、リワインダー用のワインダーが4台、製品に裁断するカッターが3台。5カ所の工場に新鋭機を含む設備が稼働し、大阪府内の紙加工会社ではトップの規模を誇る。

カッターはすべて数値制御。ほかの設備も自動化を進めている。かつてはカッターだけ手がけるといった専業加工会社も存在したが、スリッターからリワインダー、カッターまで手広く加工できることから勝ち残れた。顧客も自社に設備を入れて加工するより、サンロールに発注した方が投資効率が良い。原紙の大きなロールを在庫として受け入れ、短納期に応じることで顧客にとってはありがたい事業パートナーになっている。



サーフェイスワインダー



製紙メーカーから受納した用紙の原反



シートカッター



段ボール原紙の巻き直し加工

- 企画提案
- 試作受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンライン

カドマイスターの取り組み

品質向上・環境保全の取り組み

品質向上と環境保全にも、不断に取り組んでいる。平成24年には品質管理・保証の国際規格「ISO9001」と、環境管理・監査の国際規格「ISO14001」の認証を同時に取得した。「創意工夫」、「一致協力」、「日々前進」をスローガンに、全社員が一丸となって取得にチャレンジした。若林社長は「ISOで仕事の工程をマニュアル化できた。当社は加工だけの会社なので、比較的スムーズに認証を取得できた」と、過程を振り返る。

従業員の確保

サンロールグループの社員数はサンロールが15名、内外紙工(株)が62名。ものづくりの中堅・中小企業として、技術継承のため要員数も勤続年数も安定した従業員の確保が重要になる。内外紙工(株)では主に高卒の新卒従業員を設備のオペレーター(運転者)に配置し、若返りも進めている。先輩のオペレーターが加工をしながら後輩を1年間指導することで、技術継承を図っている。こうして作業を覚えさせ、事故やミスを避けるようにもしている。

全社員が一丸となって
ニーズにこたえる



代表取締役
若林 孝男さん

サンロールは内外紙工(株)を継承し、サンロールグループとなりました。当グループは紙加工業を行うサンロール、内外紙工(株)を運営し、両社で連携しています。お客様が望む納期を絶対なものとする「絶対納期」の考えが基本スタイルです。設備を充実し、自動化・省力化を図り、品質管理の徹底、営業力強化、そして小ロット・単発モノなどに対応しています。「創意工夫」、「一致協力」、「日々前進」をモットーに、全社員が一丸となって、さまざまなお客様のご要望にお応えいたします。紙の加工のことなら、当グループにぜひお任せください。

主な事業内容

紙・不織布・フィルムの裁断、原紙手直し、穴開け・ミシン目加工

主な取引先(納入先)

紙・不織布・フィルムの加工品メーカー、商社

【住 所】〒571-0017 大阪府門真市四宮6-1-25
【T E L】072-887-7666
【F A X】072-887-7555
【創 業】平成2年4月 【設 立】平成2年4月
【資本金】1,000万円 【従業員】15名

今後の展開

東京の展示会にも出展、 自ら売り込むに転換

若林社長は「オフィスなどで進む、紙を使わない『ペーパーレス化』は紙加工会社にとって逆風になる」と危機感を強めている。仕事を待っている受け身の姿勢から、自分たちから売り込む営業努力が必要と指摘する。そうした考えからも、平成25年に認定された「カドマイスター」は、大きな励みになるという。そこで、平成27年1月には東京・有明の東京ビッグサイト(東京国際展示場)で開催された「試作・受託加工展2015」に、初めて出展した。

ペーパーレス化の一方で、多機能フィルムや不織布のニーズは高まっている。こうした新たな分野の需要開拓も欠かせない。「現在の設備でもフィルム加工できるものはあり、外注を活用する場合もある。クリーンルームで加工する衛生的なフィルムの加工ニーズもある。こうした分野にも挑戦するのがどうか、今後の課題になる」と意欲を示す。受注環境が厳しさを増しても、経営効率を高めて利益率を上げる経営も重視している。

<http://www.sunroll.co.jp>

